

「福音の光」誌説教

「主イエス様の遺産～ 平安～」

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「わたしは、あなたがたに平安を残します。… わたしの平安を与えます。わたしが与えるのは、世が与えるのとは違います。」

ヨハネの福音書 14章 27節

「現代人の特徴は不安である」と云われています。生活の不安、病気の恐れ、老後の不安、死の恐怖等、尽きることは無いのです。その不安を払拭したいと思い、人は家や財産、金品を持って安心を得ようとし、またそれらの物を子や孫達の幸せを願い、遺産として与えたいと考えているのです。

しかし、主イエス様の与えて下さる遺産は違います。イエス様は三十歳から公生涯に入り、弟子達と共に過ごし、困窮している人に心を配り、愛を注ぎ、真理を語り、人々の幸せを願われたのです。そのイエス様は人々の罪を背負い、罪の審きを一身に受け、十字架上で死んで下さったのです。その時、イエス様の身につけていた布までも兵士達に分配され、何一つ目に見える形の遺産は無かったのです。しかしただ一つ、イエス様は、ご自分が持っていた「平安」を遺産として遺されたのです。それはどのような苦しみや困難の中にも失われることのない平安でした。それはまた世が与える平安とは異なるものです。

「世が与える平安」とは、世の人々が欲する「家内安全、商売繁盛、無病息災」で、これらが揃えば安心と思うものです。しかし「悪者どもには平安がない」のです。子どもにとって自分の親の存在を知らない事程不幸な事は無いのです。同様に私達一人ひとりに命を与えて下さった父なる神様を知らない事が不幸の元であり不安の源なのです。イエス様はその悪、罪を解決するために十字架に架かり、救いのみ業を成就されたのです。そのことにより父なる神様と和解し、神様を「お父さん」と呼ぶことにより、真の平安が与えられるのです。この平安はどのような苦しみにも奪われる事が無いのです。

私も病気の中でイエス様を信じるによりこの平安を与えられ、今も失われない恵みに生かされ感謝しております。皆様も主イエス様が与えて下さる平安に与られることを願ってやみません。